



発行所 飯田市松尾公民館
編集人 松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷株式会社



写真提供 Tetsuya Okuda さん

松尾地区まちづくり委員会主催の鳩ヶ嶺八幡宮紅葉ライトアップが11月6日から20日の期間行われた。16日からは境内でのプロジェクションマッピングが実施され、いつもと違う風景が、訪れた人の目を楽しませた。昨年も多く参加があったクイズラリー。また、紅葉フォトコンテストでは、初の試みとして、現像した写真を持ち込む写真部門の他、手軽に参加できるようにTwitter部門を設けた。



YouTubeでもご覧いただけます是非、高評価をお願いします

松尾の歴史を学ぶ会 松尾婦人会

「八幡様っていつできたの」「誰が作ったの」「誰を祀っているの」。身近にあって知っているようで意外に知らない八幡様。ちょっと勉強してみようという会が開かれた。10月23日、婦人会と公民館の共催による「松尾の歴史を学ぶ会」だ。現地集合に訪れた人は散策中の入館にも加わって30人余。講師に松尾史学会の村松甲子夫さん(八幡町区)を招き、鳩ヶ嶺八幡宮の歴史や近辺の古い道標などの説明を受けた。大鳥居の前で一礼し、石畳の参道右側を歩いて御手

水舎へ向かう。コロナ禍の影響で水は無かったが、作法の手順を確認。そこから体調に合わせて思い思いの参道から本殿を目指した。社務所で伊原宮司、中山総代長、総代の方々の出迎えを受けた後、減多に見られない御神体と対面することができた。国の重要文化財で鎌倉時代の作という「誉田別尊(15代応神天皇)」の座像は眼光鋭く、今にも話しかけてきそう。応神天皇の母で14代仲哀天皇の後、「息長足姫命」は身重ながら新羅遠征をし

た猛者だという。女神を思わせる優しい眼差しが印象的だ。5人の天皇に都合224年にわたって仕え、360余歳で没したという怪物的存在の「武内宿禰命」座像は質素な作りで、今もって応神天皇を守っていた。神秘の世界を辞し社務所の外に出ると、菊花展の準備が進められている。境内の紅葉はまだ早かったが、風もなく穏やかな日和に恵まれて、随神門や石灯笼、他の社などを見学。かつてあの菱田春草が「島田八幡宮」の挿絵を描いたであろう地点に



立つと今を忘れた。かくして勉強会が終わった。750年の歴史の中に、どれほどの願い事があり、人々の心を癒したか、石段の途中で休みつつ思う。

令和3年 こんな年でした
●松尾天竜グラウンドが飯田市体育施設として正式にオープン(4月)
●2年ぶりにいいだ人形劇フェスタが開催(8月)

2月5、6日に松尾地区文化祭が公民館にて開催されます。展示発表が中心となりますが、多くの皆様のご来場をお待ちしております。



八幡宮奉納大菊花展

松尾地区の菊愛好家で作る「松尾菊花会」の奉納大菊花展が10月26日から行われ、大輪の菊約130株が展示された。この菊花会には緑ヶ丘中学校技術部が栽培した3本立ての大菊も奉納された。主催者側の八幡宮によると「年々出展される方が減っている」という。菊愛好家の皆さん、是非チャレンジを!

松尾の人口

男子	6,169人
女子	6,706人
計	12,875人
世帯数	5,234世帯
11月末現在	

松尾の人口
男子 6,169人
女子 6,706人
計 12,875人
世帯数 5,234世帯
11月末現在

ようこそ松尾へ

城區 宮澤 圭さん、聡美さん、果凛ちゃん、鏡子さん

小中学校に近い城区に新築されて、生まれたばかりのお子さんがいる温かいご家族にお話を伺いました。

Q 圭さん、聡美さんの出身地はどちらですか?
A 圭さん 伊賀良です。聡美さん 上田市です。

Q お二人の出会いはいかでしたか?
A 聡美の職場に圭が来たことで出会いました。

Q 以前はどちらにお住まいでしたか?
A 上郷です。

Q 松尾の印象はいかがですか?
A 近所の人たちがとてもフレンドリーに接してくれます。子育て中のご家庭が多く、頼りになります。

Q 新居に引っ越した感想を教えてください?
A 暖かくて快適です!前の家はとても寒かったの。

Q 毎日の生活はどんな様子ですか?
A 授乳とおむつ替え、抱っこ連続です。でも子供がかわいいので頑張れます。最近よく笑ってお話してくれます。

Q 今後松尾に期待することがあったら教えてください?
A これからも子供から大人まで明るく楽しく過ごせる地域であってほしいですね。お忙しい中ありがとうございました。

松風
長く続いたコロナ禍で私たちは移動の自由が奪われてしまった。今まで楽しんでいた旅行も全くなさな状況が続いている。さらには会える人も限られてしまい、新しい出会いも少なくなり、毎日が閉ざされた空間の中で過ごすことが日常となつてしまった▼音楽家のモーツァルトは「自分の音楽的才能は、旅に出て様々な新しい音楽に触れることによつてこそ花開く」と言っていた。「創造性は人生における累積の移動距離に相関する」との分析もあり、旅と創造性には強い関係性があるそう▼私たちが毎日同じ空間で同じ人との日常空間だけで過ごしていると、新しい発見や気づきが失われていく。例えば旅先でみそ汁を飲んでみて、とてもおいしいけれどやっぱりいつものがいいなと感じることがある▼旅は非日常に出会うことで感じるものが多くなり、旅をした後ではいろいろな事に気づく量が増える。脳の活性化につながる。なるべく多くの人と旅に出る。これが一番である▼感染症予防の対策を万全にした上で、松尾から遠くに出かけてみよう。きっと今まで失った何かをたくさん得ることが出来るであろう。

運動会用具を確認

これって何に使ったんだっけ？(スポーツ委員が確認作業)



こうやって担ぐんだよ



壮年会リレーに使う米俵



俵の中身は2Lコーラ2本とまるめたビニールだった



小中学生対象
パン食い競走のもの干し竿



壮年会リレーの宅配箱
実は空箱で安定が悪いらしい



浅井委員長から説明を受けるスポーツ委員ら



前日に雨が降ると登場する
雨水を吸い取る大型スポンジ
歴代のスポーツ委員が早朝から
作業していた



満水リレー。なんと、この入浴剤で
色をつけていた



水をすくう容器は、ひしゃく、
おたま、お皿だよ



逆さでキャッチ



これは見たことあるよね

運動会 備品チェック

11月18日、スポーツ委員会の委員による運動会備品チェックが行われた。運動会は、雨天やコロナの影響で3年間行われていない。

備品一つひとつをミニ体育館に集めて、何の競技にどうやって使うものかを浅井晃委員長が中心となって説明した。委員らは初めて目にするものもあって、真剣に説明を受けていた。

浅井さんは、「令和3年度は例年通りの運動会ができないことが決まり、役員も新しい委員ばかり(4年前から存続している委員は4人のみ)」ということもあって備品の場所や状態を確認しようということになった」と今回の取り組みについて話した。

運動会移り替わり

趣向を凝らした
運動会を振り返る

3年間の運動会中止を経て、広報委員会では、まつお新聞を通して運動会を振り返ってみた。「男子300歳女子250歳リレー」や「おしどり夫婦」など、種目は時代時代で移り変わっている。80年以上続いてきた松尾区民運動会が、今年はどうな形で開催されるのか興味深いところだ。



平成12年 勢い余って重ね餅



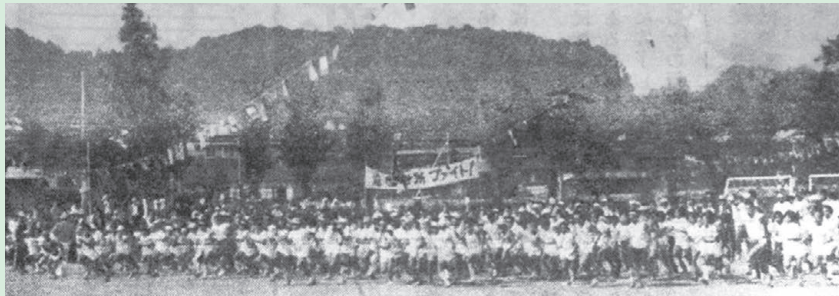
平成12年 一糸乱れぬ婦人会ダンス



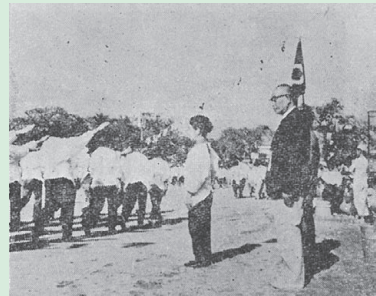
昭和34年 青年会7色リレーの1コマ



平成15年 彼と彼女はツーショット



昭和55年 マラソンスタート



昭和48年 婦人会大行進



平成30年 壮年会リレー 俵をかついで



平成21年 ダイスきどっち



平成27年 俺に、ついて来い



平成24年 倒れても離さないわよ



平成30年 壮年会リレー むかで



平成30年 開会式始まるよー



平成21年 大玉ころがし



平成29年 富くじ当たったのは誰？

モデルロケット発射!



11月18日、松尾小学校6年生117人を対象に科学実験教室(モデルロケットの製作と打ち上げ)が行われた。

製作は3クラス合同のため、体育館にプロジェクトを設置し、おもしろ科学工房代表の三浦宏子さんが児童らにわかりやすいよう説明しながら進められた。

作るに当たり、難しいところはスタッフの手を借りたり友達同士で助け合ったりしながら完成させた。

場所をグラウンドに移し、6学年担任のカウントダウンに合わせて6基ずつ同時に打ち上げた。児童らは打ち上がった自分のロケットを回収するため急いで走って行った。菅沼あいさんは「作り方で分からない所があったけど、分かりやすく丁寧に教えてくれたおかげで、うまく作れてすっかり飛んで嬉しかったです」と話した。

この事業は、松尾青少年健全育成会が主催し、おもしろ科学工房と松尾サイエンスが協働で始めて今年で13年となる。山崎育成会長は、「モデルロケットには歴史があり、それを松尾の子供たちが体験できることは素晴らしいことだと思は素晴らしいことだ」と思う。スタッフの皆さんがボランティアで、事前に大変な準備をしてくれたことも、これに関わるまで知らなかったが、本当にありがたいことだ。松尾で始めてから一度も途切れることなく、今では6年生になったらモデルロケットを打ち上げられるという子供らの楽しみとなっている。児童らの歓声がそれを物語っていた。

区 伍組対抗 ニュースポーツ 秋季大会

11月7日、明区囲碁ボール大会が松尾公民館ホールで開催された。コロナ禍で多くの行事が制約される中、感染者数減少に伴い、実施できることとなった。また、この日は新しい囲碁ボールを2セット購入したお披露目の大会ともなった。

3日、4日と狙っていたが、相手のボールにぶつかって止まったり。一打ごとに歓声や「ナイス」の聲が飛び交う。

感染防止対策を徹底し手袋をしてスティックを握り試合開始。狙いを定めてボールを打つが、強すぎたり弱すぎたりで、思うようにいかない。ボールが並んでいくに従い、



3つのブロックから勝ちチームを決め、決勝トーナメントに進む頃にはコツをつかみ、各チームで作戦を練り、熱戦が繰り広げられた。

明区の久し振りの行事に、たくさんの方の元気や笑顔があふれ、親睦がよりいっそう深まった大会となった。

区 城區民交流会 「城リンピック」開催

城區分館事業として、11月21日「城リンピック2021」を松尾小学校体育



育館で開催した。従来は夏に飲食を主体としたサマーフェスティバルを開催して、コロナの影響のため、どのような形で区民の交流を図れるか分館役員を中心に検討し、今回初めて区民全員が参加できそうなゲームと福引きを主体とした行事を企画し準備を進めてきた。

会場では、始めに区長とじゃんけん

いたが、コロナの影響のため、どのような形で区民の交流を図れるか分館役員を中心に検討し、今回初めて区民全員が参加できそうなゲームと福引きを主体とした行事を企画し準備を進めてきた。

仲村武志城區長は「コロナ禍でイベントができない中で、分館役員に行事を計画して頂き、短い時間で区民の皆さんの気分転換が図れ、笑顔で帰ることができました」と語った。

文化祭各地区で開催

久井区

久井区では、11月6、7日に文化祭を開催した。新型コロナウイルスが落ち着きを見せているため、感染防止対策をしながら、例年行っているお茶の接待、農家組合による農産物の直売等をやるなど、規模を縮小して実施した。その他はいつもの様に、集会所で各クラブの活動、小学生の一研究写真、手芸等の展示、中には第二次世界大戦における日本陸海軍の軍

服があり、とても貴重な品も展示もあった。なお、本年度の松尾地区文化祭に久井区の展示がされる。



水城区

11月14日、水城区文化祭および敬老祝賀会が水城コミュニティセンターで開催された。感染防止対策のため規模を縮小した影響からか、例年より参加者の女性(81)は「久しぶりに多くの人に会えたことが何より嬉しかった」と喜んでいました。

また、健和会病院協力のもと、骨密度測定や体力測定も行われ、参加者は自分の結果に一喜一憂していた。

後半の敬老祝賀会では、区民を代表し役員が先輩19人を祝った。

参加者の女性(81)は「久しぶりに多くの人に会えたことが何より嬉しかった」と喜んでいました。

毛賀区

11月14日、毛賀分館による秋の恒例行事である文化祭が行われた。今年もコロナ禍を受け、昨年に続き規模を縮小。区民による芸術作品の数を減らすという苦渋の決断をした。展示となった。感染防止対策で、換気のため一部の窓を開けるなどした結果、展示物の間隔を広く取る事となったが、来場者か



当日使用したトーチやユニフォームなどを展示したコーナーを設けた。日頃見ることのない物だけに、興味深く見入っていた。

ふれあいひろば

*松尾サイエンススクール
11月6日分光器を作ろうをテーマにサイエンススクールが行われ10人が参加した。



明区 おもしろサイエンス

11月21日、明区では「おもしろサイエンス」が、松尾サイエンススタッフを講師に開催された。

まず最初はサイエンスショー。5人の分館役員が記号の描かれたカードを持ち、子供たちが選んだカードを不思議なメガネをかけた分館長に当ててもらおう。ピタリと当てる分館長に、子供たちは驚く。子供たちもこの不思議なメガ

ネを通して見ると、描かれたカードの向きで記号が見えたり見えなかったりした。スタッフが、偏光フィルムを使った光の通り方の不思議をわかりやすく説明し、子供たちも納得した。

続いては着せ替えゴマの工作。CDの中心の穴にビー玉をはめ込み、うず巻き模様を描いて回す。ぐるぐる回るうず巻きをしばらく見続けた後に手のひらを見ると、手のひらがゆがんで見える。子供たちからは「なんで?」「目が変になっちゃったのかな?」の声。

その後、子供たちはこの不思議な着せ替えゴマの工作に取り組んだ。自分で思いの色や模様を描いた紙をCDに貼りつけ、ぐるぐる回して目の錯覚による不思議さを楽しんだ。

子供たちは、科学の不思議さとおもしろさを体験し、楽しいひと時を過ごした。



偏光フィルムを通して見ると...

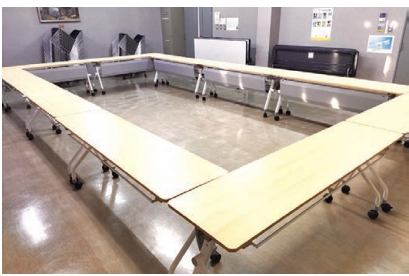


還暦の会

伝統の会を絶やすことなく

鳩ヶ嶺八幡宮で10月30日、令和3年度松尾地区還暦の会の祈願祭が執り行われた。新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小して実施。同会実行委員会の役員と松尾公民館の下條啓市館長ら7人が参加し、還暦を迎えた松尾地区住民を祝い、地域の安寧と発展を祈願した。

前年度に満60歳を迎えた松尾地区住民が対象で、今年138人が該当。12地区から1、2人ずつ選出した実行委員でつくる実行委員会が、公民館と共に今年2月から準備を進めてきた。



机が新調された公民館第1会議室

平栗博幸実行委員長(清水区)は「祈願祭は役員のみで、祝賀会は実施できないという形となり、残念な気持ちもあるが、皆さんの協力があって無事終えることができた」と話した。

祈願祭では、平栗委員長が

下條公民館長へ目録を贈呈。記念事業として、還暦の会より公民館へ会議用長机6脚が寄贈された。

松尾図書館

本のリクエストも受けつけています。

開館日 (公民館2階)
水曜 午後1～5時
土曜 午前10～午後5時
日曜 午後1～5時

毛賀諏訪神社秋季例大祭 奉納煙火



9月25日毛賀諏訪神社秋の例大祭を祝し、奉納煙火が毛賀打舞会によって行われた。コロナ禍を考慮し規模縮小となったが、午後7

時からの夜の部では33発の打ち上げ花火やスターマインがおよそ1時間にわたって秋の夜空を彩った。

区民、各組合の繁栄、長

寿のお祝い、そして健康祈願やコロナの終息などの思いを載せた花火を、観覧席は設けず、それぞれの家から見守った。

代田区 ペタンクで楽しく交流

恒例の代田区民スポーツ大会が、晴れの特異日である11月3日に飯田女子短期大学グラウンドで開催された。青空の下、広いグラウンドには200人程の多くの区民が感染防止対策として検温、マスク着用で参加した。

準備運動のあと、組合内で3、6人のチームが作られ全48チームがペタンク競技を行った。



何点とれたかな?

見た目よりも難しいペタンク。大人も子供もボールを狙い定めて転がしてみたり、高く放り投げてみたりと工夫していた。ボールの行く方に注目し、喜んだり

がっかりしたりしながらも参加者たちはコミュニケーションを取りながら楽しんでいった。

また、組合毎にブルーシートが敷かれ、試合の合間にはお茶を飲みながらくつろぐ様子もあった。試合は予選4試合のあと、決勝戦が行われ各ブロックの1位から3位のチームに賞品が渡された。

コロナ禍で沈んでいた気分を吹き飛ばす様な笑顔あふれるにぎやかな大会となった。

地域活動で心も身体も健康に!

11月20日午後3時半より松尾公民館ホールにおいて、令和3年度分館役員研修会が開催された。各分館の分館長、副分館長、分館主事、本館の専門委員会正副委員長の約40人が参加した。

日本福祉大学社会福祉学部講師の宮國康弘さん(代田区在住)を迎え、「松尾地区における健康課題とその対策―地域のつながりの可能性―」を演題に講演して頂いた。

宮國さんは公衆衛生とそのデータ解析を専門としており、社会とのつながりの種類や量が多いことが心や身体の健康に寄与することを様々なデータを用いて分析している。例えば、社会参加の

種類数が多いほど要介護発生のリスクは減り、社会とのつながりの数が多いほど認知症リスクが半減するといふ。

松尾地区では、地区運動会などの地域活動が盛んで、社会活動やスポーツ・趣味の会へ参加することが心と身体の健康につながる。データ解析で証明されていると報告された。

参加した水城区の片桐善男分館長は、「松尾にこのような研究をされている素晴らしい人材



がいることに感銘を受けた。松尾地区はあいさつ運動を通じて、地域の子供たちとのコミュニケーションを図っており、これも社会活動のひとつだろう」と語った。